

福岡雙葉中学校・高等学校

国家戦略特区FUKUOKAからはばたく 女性グローバル・リーダーの育成

【構想の概要】

女性グローバル・リーダー育成のため、イノベーション創出手法である「デザイン思考」などを含めた教育課程を開発し、九州大学と共にこれに資する真の学力を涵養する教育の在り方について高大接続により研究開発を行う。また、早期英語教育導入の在り方及び教科横断型学習による教育システムを小中高連携で開発する。これまで本校が育ててきたグローバルシティズン教育に、グローバル・リーダー育成に資する教育課程と、スーパーグローバル大学創成支援（トップ型）に採択された九州大学との高大接続を加えて、国内トップレベルのグローバル教育推進校を目指す。その中で多様な文化や価値観を有する人々と協働し、グローバルな舞台上で積極的に課題解決を図り、新たな価値を創造できる人物を育成する。



【教育課程表】

GC	高1	宗教	国語総合	世界史	現代社会	数I	数A	化学・生物基礎	保健・体育	芸術	コミ英I	OC	RWP	国際教養	家庭基礎	情報	総合	HR
	高2	宗教	現代文B・古典B	世界史Bor日本史B		地理B・公民	数II	数B	化学・生物基礎演習	保健・体育	コミ英II		ディスカッション	RWP	国際教養	情報	総合	HR
	高3	宗教	現代文B・古典B	世界史Bor日本史B		地理B・公民	総合数学	化学・生物演習	保健・体育	コミ英II			ディスカッション	RWP	国際教養	情報	総合	HR

カリキュラム開発について

2015年度に、SGH活動を中心的に行うコースとしてGC（グローバルコミュニケーション）コースを高校に設置した。このコースでは、総合的な学習の時間にデザイン思考を、また学校設定教科（国際教養）を開設し、国際問題について学ぶ・話す授業を展開してきた。外国語には、R.W.P.（リサーチ・ライティング・プレゼンテーション）、Discussionの科目を加え、国際通用性を高める英語力の伸長を目指した。

高大接続について

大学との連携は、授業・イベント・教員間・入試などあらゆる面から取組んだ。デザイン思考の授業は、九州大学芸術工学部の教員と、カリキュラム開発から授業支援まで幅広く連携した。国際教養の授業は、九州大学の教員の講義、また大学生・大学院生・留学生が授業設計に携わり授業自体に参加するなど、これまでの高校での学びにはなかったことを行った。

また、高大の教員間で情報交換を定期的に行うようになり、大学で専門性を高める研究をするために高校で身に付けておくことなどを知る機会となった。

特に九州大学は、毎年SGH、SSH活動の発表の場を設けられるので、生徒は大学の教員の評価を直接聞く機会に恵まれた。多くの大学のAO入試・推薦入試で、SGHでの課題研究は評価され、生徒は高校での学びを大学での学びに繋げていくことができた。

小中高一貫教育における英語教育について

2012年度本学園小学校に英語で理科・算数・道徳・学級活動をする英語イメージのコースが設置された。2018年度にその生徒が中学に入学し、現在は小学1年～中学2年まで在籍している。

中学では、英語を週8単位設け、その中で、英語で行う理科・数学・社会・英語を実施するCLIL（Content and language integrated learning）教育をしている。教員は全てネイティブである。小学校で算数・理科などの授業を英語で行うことで、当初学力について不安の声があったが、結果として全く問題がな

いことが分かった。中学で行っているCLIL教育でも真の学力の涵養が期待できる。

成果と課題

成果として数字で明らかに表すことができるものは、英語でのコミュニケーション力や発信力の向上である。それは英検の合格者数（準1級以上の取得率34パーセント）から実証できる。また自ら学ぶ意欲が向上し、2019年度トビタテ！留学ジャパン（第5期）には10名の生徒が選抜された。

課題としては主に2点ある。1点目はデザイン思考の評価の難しさ、2点目は校外での活動に対する指導である。この2点の課題については、今後も対策・対応を考えていく。

成果①：トビタテ！留学JAPANへの参加者推移



成果②：実用英語検定合格者



事業の継続（今後）について

2019年度WWLコンソーシアム構築支援事業における立命館宇治高等学校の連携校として活動する。国際会議や海外研修なども、連携して取組めるようになり、1校だけで研究開発していたものと比較して学びの質が上がり深くなることを期待している。SGHで生徒がどれ程成長したかを見てきた本校だからこそ、その経験を土台にSociety 5.0に向けた人材育成にフォーカスした教育をしていく。